

令和7年度 栃木支部冬山山行・新年会

1 期日：令和8年1月17・18日

2 場所：1日目 日光庵滝 光徳小屋泊 2日目 山王帽子山

3 行動概要

1月17日 晴れ

JR 日光駅 (7:00) 乗り合させて移動 — 竜頭の滝上駐車場 (8:10) … 弓張峠 (9:30) …庵滝 (10:40~11:45) … 小田代ヶ原分岐 (13:05) … 小田代ヶ原周回 … 駐車場 (14:50) — 光徳小屋

参加者：渡邊・高野・後藤・林・荒井・藤大路（ゲスト）・鈴木（ゲスト）以上7名

今年の冬山一日目は山とは言えないかもしれないが庵滝の散策となった。当日まで赤岩滝と迷ったが、距離が長いことやトレースが無さそうという事でこちらになった。ここ何日か気温が高く、滝の凍結具合が心配ではあるが初めて行く場所になるので楽しみだ。竜頭の滝上駐車場に車を停め、まずは弓張峠を目指して出発する。外気温は車の温度計でマイナス4度ほどだったが、日が差す中歩き始めるとすぐに体が温まってくる。弓張峠までは舗装された道路をしばらく歩くことになるが、積雪もあまりなく、たまにスリップする以外は歩きやすい。弓張峠で小休の後、道路を外れて外山沢へと向かう。積雪は20~30センチほどだが、人気のスポットでもあるため踏み跡もしっかりあって、ツボ足で進む。途中小休止をはさみ、一時間程で庵滝へ辿り着く。到着早々、渡邊支部長の号令で滝右手側の急な尾根をラッセルしながら登り、30分程かけて滝上部まで登り詰めた。あいにく展望も望めず、再び滝まで戻る。気温が高いせいか凍結具合はまだまだだったが、土曜日ということ



滝の裏側で

もあり多くの人がこの時期しか見られない自然の造形美を堪能していた。帰路は少し時間に余裕があるので、小田代ヶ原を一周して駐車場へと戻った。結果的に標高差こそ500mほどであったが、庵滝 凍結具合はまだまだといったところ 14kmほど歩き、程よい疲労で冬山一日目を終えることができた。（文責 荒井）



小田代ヶ原を背景に

庵滝 凍結具合はまだまだといったところ 14kmほど歩き、程よい疲労で冬山一日目を終えることができた。（文責 荒井）

1月 18 日 晴れ

光徳小屋…光徳駐車場 (7:45) …山王峠 (9:45) …林道 (10:15) …山王帽子山 (12:20) 山王峠 (13:15) …光徳駐車場 (14:00) — 東武日光駅

参加者 藤大路(ゲスト)・高野・仲畠・後藤

昨日の夜は光徳小屋で、仲畠さんのおいしい手料理を囲みながら楽しいひと時を過ごすことができた。冬の光徳小屋ということで防寒着がどれほど必要か少し心配しながら向かったが、夜通し焚いたストーブのおかげで室内は暖かく、ぐっすり休むことができた。

翌朝、光徳小屋から徒歩で光徳駐車場へ戻った。準備を整え、朝で帰られる皆さんと別れ、山王帽子山へ向けて出発した。メンバーはゲストの藤大路さん、高野さん、仲畠さん、後藤の4名である。駐車場からしばらくはクロスカントリーコースやスノーシューの踏み跡をたどり、途中からは夏道沿いにしっかりしたトレースを進んだ。樹林帯にはところどころ動物の足跡が残り、雪に下草がすっかり埋もれているため、夏には気づかない大きな岩が姿を見せていた。朝の光に照らされた雪面に木々の影が映り、とても気持ちよく歩くことができた。1時間ほどで山王峠に到着した。新調したスノーシューの慣らしを目的に来ていた仲畠さんは、ここで一足先に下山した。

山王峠まではしっかりした踏み跡が続いていたが、峠から先はトレースが少なく、この日は先行者が2人ほどだったようだ。登り始めて10分ほどすると下山してくる人とすれ違った。その後もトレースはあるものの、斜面を直登しており、傾斜がきつくなるにつれてなかなか厳しい。登山道をたどれば傾斜は緩やかになるのだが、つい急なトレースを追ってしまった。藤大路さんは途中で引き返し、高野さんと後藤の2名で頂上を目指した。

しばらく進むと傾斜も緩み、山王帽子山の頂上に到着した。先行者は太郎山方面へ向かったようだ。頂上からは白根山、男体山、中禅寺湖を一望でき、この時期としては珍しく2日続けての晴天に恵まれた。しばし展望を楽しんだのち下山した。(後藤)

